



国際探究科



普通科

若狭高校は全日制4学科・定時制普通科を持つ学校です



理数探究科

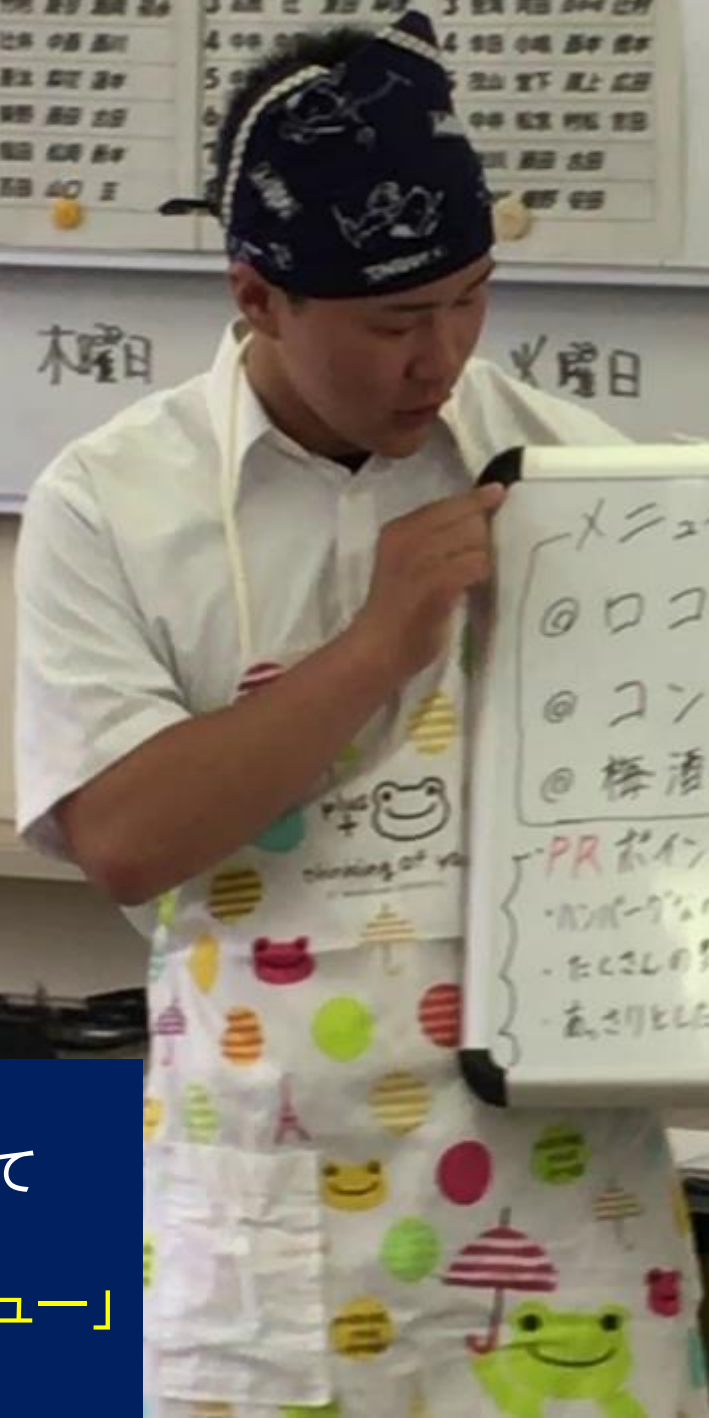


海洋科学科


福井県立若狭高等学校

こんなふう^にに学ぶ生徒たちが
育っています

令和元年6月13日
「家庭基礎」調理実習にて
自身の考案した
「地域食材を活かしたメニュー」
のプレゼンテーション



メニュー

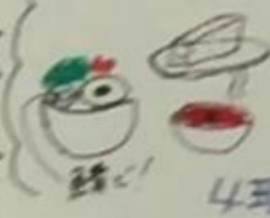
- ◎ ロコモコ丼
- ◎ コンリクスープ
- ◎ 梅酒寒 

PRポイント

- ・地元産の食材を使用
- ・おこしの野菜!
- ・おさりとしたデザートまで!

女性の特産品

- ・鯖缶
- ・若狭梅
- ・越のルビー

完成例 

4皿



令和元年6月6日 地歴・公民科の
学校設定科目「社会探究Ⅰ」
地域活性化アイデアの練り合い



平成30年9月25日
新指導要領新科目「現代の国語」を
見据えた単元での、公開研究授業
50名超の参観者を集めた

本日議論したい問い

「目の前の生徒」に沿った

「**教科の本質**」を、

単元づくりで意識しているか？

本日議論したい問い

高次の学力を育むには、
どのような単元をデザインすべきか。

- ①どんな力を、②どんな教材・活動で培い、
③どう評価するのか？

研究1 単元レベルの目標のあり方(どんな力を育むか)

- 国語科・家庭科

「主体的に学習に取り組む態度」に関する
単元レベルの目標のあり方とは？

- 地理歴史科・公民科

「現代社会の諸課題を理解し、解決する方向性を見出す」ため
には、単元レベルでどのような目標設定が必要か？

「目の前の生徒」に沿った「教科の本質」を目標設定においても重視する

研究2 学習活動の組織 (どんな活動デザインが高次の学力を育むのか)



思考から表現
^



認識から思考
^

話し合う前後の活動を充実



表現から省察
^

研究3 高次の能力の評価

(どのような評価を行うことが、高次の能力の育成につながるのか?)

- 1 「目標に準拠した」**評価課題**の策定
- 2 「目標に準拠した」**総括的な評価**の設定
- 3 **形成的な評価**の充実
- 4 評価を**社会**に開く

3-1 評価課題の策定

<p>▶知識・技能</p>	<p>▶思考・判断・表現 等</p>	<p>▶主体的に学習に ▶取り組む態度</p>
<p>○文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。*</p> <p>（新学習指導要領「現代の国語」知識・技能の（1）イに準拠）</p>	<p>○自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。*</p> <p>（新学習指導要領「現代の国語」A 話すこと・聞くことの（1）イに準拠）*</p> <p>○読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している（新学習指導要領「現代の国語」 B 書くことの（1）イに準拠）</p>	<p>○伝統・文化といった内容にこだわらず、自身の考えを表出する活動に積極的に関わり続け、他者とももの見方・感じ方・考え方を対話し、問い直す機会を作り出し続けている。</p>

「複数の意見を読み比べて意見文を書く」
 という表現活動を伴う評価課題を設定

「この新聞記事を読んだ4人の考えを聞いた後に、最後にあなたが発言するとしたらどう述べますか。」

「この単元の学習を通して、
 学び・考えたことは？」
 と、少しぼんやりとした
 問を投げかける

3-2 総括的な評価 定期考査で書かせた意見文の評価基準表

	主張とその論拠 (1・2段落)	具体例 (3段落)	予想される反論 (4段落)	予想される反論への再反論 (5段落)	表現と形式 (全体)
4	自らの主張が明確に述べられており、それを支えるために説得力のある論拠が示されている。	意見の妥当性を保証する適切な具体例をわかりやすく提示している。	問題文に出てくる登場人物の考えをふまえ、自分の意見に対する反論を複数の観点から取りあげた上で、それぞれについて丁寧にその論拠を説明している。	複数の観点からの反論に対して、自分の意見の方がより良いと言える論拠や、反対意見の問題点が書かれるなど、十分に説得力のある再反論が加えられている。	指定された形式の無視、指定された形式の無視、誤字脱字、主語述語の不一致等が一つもない。
3	自分の主張が明確に述べられており、それを支える論拠も提示されている。	意見の妥当性を保証する適切な具体例はあるが、少しわかりづらい。	問題文に出てくる登場人物の考えをふまえ、自分の意見に対する反論を複数の観点から取りあげているが、それぞれが簡単に述べられているだけである、または、一つの観点からの反論を示した上で、丁寧にその論拠を説明している。	反論に対して、自分の意見の方がより良いと言える論拠や、反対意見の問題点が書かれるなど、十分に説得力のある再反論が加えられている。	指定された形式の無視、誤字脱字、主語述語の不一致等が一つしかない。
2	自分の主張は明確に述べられているが、その論拠が不十分である。	具体例は挙げられているが、意見の妥当性を保証するとは言いがたい。	問題文に出てくる登場人物の考えをふまえ、一つの観点からの反論を示しているが、その論拠は簡単に述べられているだけである。	反論についてふれられてはいるが、自分の意見の方が良いと言える論拠や、反対意見の問題点が書かれていない。	ミスが二つある。
1	自分の主張が明確に述べられていない。	意見との関連が薄い具体例しか挙げられていない。	反論のみが示されて、論拠はない。	再反論の論拠がほとんどない。	ミスが三つある。
0	主張がない。	具体例がない。	反論がない	再反論がない	ミスが四つ以上ある。

3-3 形成的な評価

意見文を書く学習の過程において、生徒と共有した評価基準表

	「問い」の設定	探究の過程と導かれた結論	ふりかえり
5	その「問い」が、伝統・文化に関する問題の核心を突く重要な「問い」であることを自覚した上で、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程をわかりやすく、論理的に述べている。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で、より説得力のある証拠や論拠を用いて結論を作り上げている。	意見文作成を通して学び、考えたことだけではなく、ノートに記されている、それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して「ふりかえり」を書いている。特に、学習過程において自らが視点を転換したり視野を広げたりしてきたこと、自分の思考を何度も問いなおしていること、そして自覚的に探究を進めてきたことが具体的にわかる記述になっている。
4	その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚した上で、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程をわかりやすく、論理的に述べている。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で、証拠や論拠を用いて結論を作り上げている。	意見文作成を通して学び、考えたことだけではなく、ノートに記されている、それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して具体的な「ふりかえり」を書いている。
3	その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚しているが、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程がわかりづらい。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、可能性のある複数の仮説について検討しているが、説得力のある結論には至っていない。	ノートに記されている、それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して「ふりかえり」を書いているが、意見文作成を通して学び、考えたことに関する記述が少ない。または、その逆である。
2	その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚しているが、様々な情報を参照しなくても答えを出せる、または、参照しても答えを出さることができないような「問い」である。	他者の意見や様々な情報を反映しようとしているが、可能性のある複数の仮説について検討していない。	意見文作成を通して学び、考えたことだけではなく、ノートに記されている、それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して「ふりかえり」を書こうとしているが、全体的に量が少ない。
1	その「問い」は、伝統・文化に関する重要な「問い」とは認めがたい。	「問い」の解決に関連する情報をほとんど用いずに結論を作成している。	「ふりかえり」を書こうとしているが、全体的に量が少ない。

3 - 4 社会に開かれた評価

教師が評価を独占しない。様々な価値観・観点からの評価を受ける



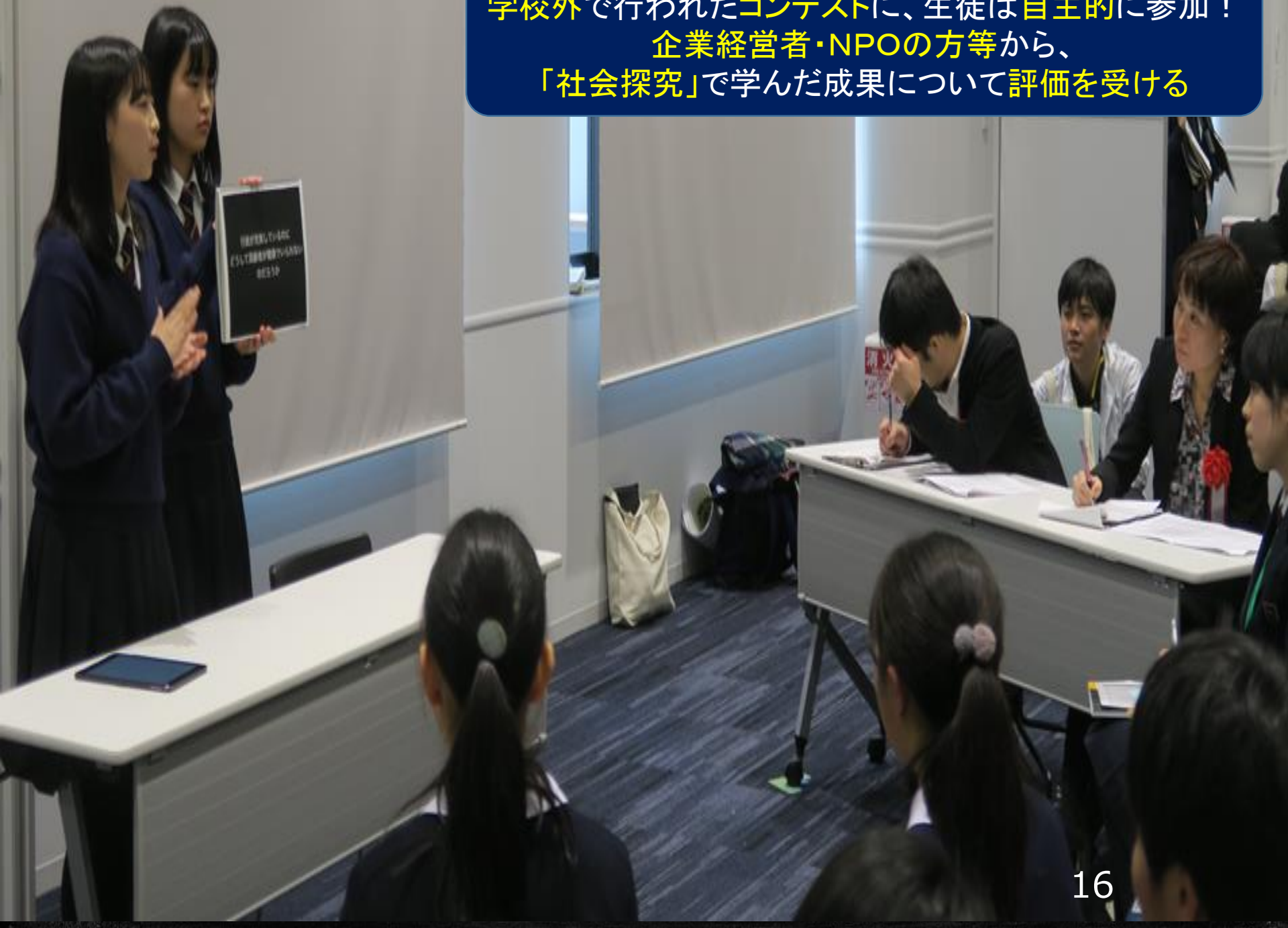
公開授業時に、他校の先生方や大学研究者等から、「多文化社会のあり方」についての考えへの評価を受ける生徒

発表生徒

「ふりかえり」
に用いるために、
iPadで撮影する
友達

大学研究者

学校外で行われたコンテストに、生徒は自主的に参加！
企業経営者・NPOの方等から、
「社会探究」で学んだ成果について評価を受ける



「目の前の生徒」に沿った「教科の本質」を見据えた上で

目標・学習活動・評価の一体化を図るよう

単元をデザインすることがポイント

でも、一番大事なものは

教員がチームとなること

授業改善は一人では難しい。

チーム作りこそが、改善の第一歩では？

国語科教科会 毎回一人が「おすすめの本」を紹介！
事務的な打ち合わせを最小限にし、授業について語り合う



互見授業後のふりかえり

新採用・英語

2年目・数学

今年、中学校から異動・地歴公民

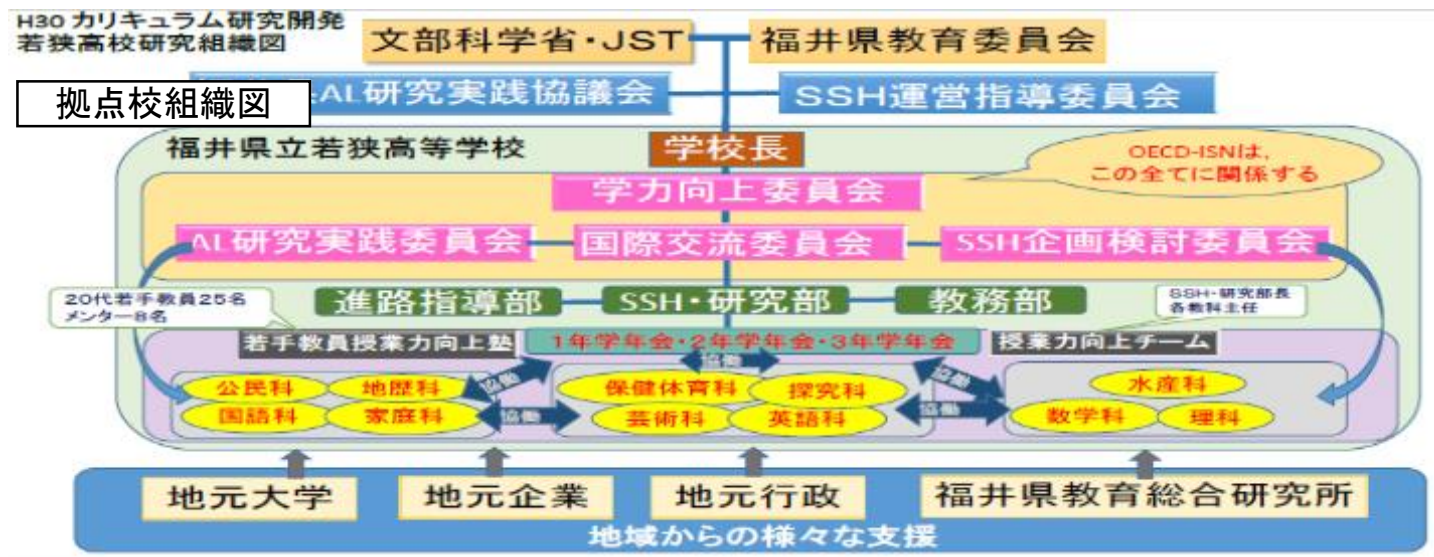
教科・年齢・校務分掌が異なる教員と、話し合う機会を若狭高校はたくさん取り入れています

福井県立若狭高等学校

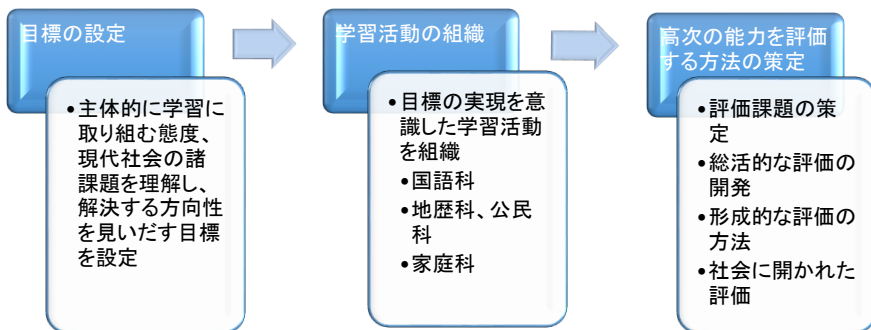
教師も生徒も共に
学び合いながら

教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング) の視点からの学習・指導方法の改善
に取り組んでいます

拠点校において3つのカリキュラム開発プロジェクトを実践し成果を発信しています



研究開発のプロセス



研究成果の活用

教材の共有

- 県下ネットワークを活用し、教材・教具・テキスト、ルーブリックの共有

研究成果の発信

- 拠点校ホームページで発信するとともに、SSH等のプロジェクトを含めて各種学会で発表。

ぜひ若狭高校ホームページをご覧ください